

第5号様式（第7条関係）

会 議 録

会議の名称	令和元年度清須市地域包括ケアシステム推進委員会 「第1回在宅医療・介護連携推進部会」
開催日時	令和元年9月20日（金） 午後2時から午後3時
開催場所	清須市役所南館3階 大会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. あいさつ 3. 委員紹介 4. 清須市地域包括ケアシステム推進委員会設置要綱について 5. 部会長選出 6. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 在宅医療・介護連携推進事業について (2) 「きよすレインボーネット」電子@連絡帳について (3) 在宅医療サポートセンター業務計画 (4) 他市医療機関との連携 7. その他 8. 閉会
会議資料	令和元年度清須市地域包括ケアシステム推進委員会委員名簿（在宅医療・介護連携推進部会） 清須市地域包括ケアシステム推進委員会設置要綱 清須市在宅医療・介護連携推進事業について（資料1） 「きよすレインボーネット」電子@連絡帳について（資料2） 令和元年度在宅医療サポートセンター業務計画（資料3） 北名古屋市地域包括ケアシステム推進協議会 コ会議協議報告（資料4） 在宅医療・介護連携推進事業（別添資料） 地域アセスメントシート（参考資料）
公開・非公開の別 （非公開の場合 はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	0人
出席委員	加藤委員、大前委員、山口委員、杉山委員、脇田委員、太田委員、高橋委員
欠席委員	なし
出席者 （オブザーバー）	西名古屋医師会在宅医療サポートセンター 中西コンダクター
出席者（市）	河口健康福祉部長

事務局	<p>(清須市役所高齢福祉課) 古川高齢福祉課長、幸村介護予防係長、竹内主任、中村主事 (清須市役所保険年金課) 篠田保険年金課長 (清須市社会福祉協議会地域包括支援センター) 柴垣管理者、松岡係長</p>
会議の経過	<p>1 開会</p> <p>●事務局 只今から令和元年度清須市地域包括ケアシステム推進委員会「第1回在宅医療・介護連携推進部会」を始めさせていただきます。 私は、本日の進行役を務めさせていただきます高齢福祉課長の古川です。よろしくお願いいたします。 会議に入る前に、委員の皆様にあらかじめご承知いただきたい事項として、清須市では附属機関等の会議の公開に関する要綱を定めており、附属機関等の会議及び会議録は原則公開することになっておりますのでご承知おきください。 なお、本日傍聴者はお見えになりません。</p> <p>2 あいさつ</p> <p>●河口健康福祉部長 〔部長挨拶〕</p> <p>3 委員紹介</p> <p>4 清須市地域包括ケアシステム推進委員会設置要綱について</p> <p>●事務局 〔要綱の要点について説明〕</p> <p>5 部会長の選出について</p> <p>杉山委員の「事務局に一任」のご発声により、事務局側から加藤委員を部会長として提案。 (全委員承諾)</p> <p>設置要綱第6条第4項の規定により部会長が議長になることになっているため、議事進行については加藤部会長が行う。</p>

加藤部会長より会議録署名委員に大前委員、山口委員を指名。
(大前委員、山口委員承諾)

6 議事

令和元年度清須市の在宅医療・介護連携推進施策について

●事務局

[資料に沿って説明]

清須市在宅医療・介護連携推進事業について (資料1)

「きよすレインボーネット」電子@連絡帳について (資料2)

令和元年度在宅医療サポートセンター業務計画 (資料3)

北名古屋市地域包括ケアシステム推進協議会 コ会議協議報告 (資料4)

在宅医療・介護連携推進事業 (別添資料)

地域アセスメントシート (参考資料)

◎加藤部会長

ただ今の説明に対して、何か質問・意見等はありませんか。

北名古屋市で行われたコ会議を清須市でも行うつもりはありますでしょうか。

●事務局

現在検討中ではありますが、近隣の市町のあちこちで開催するのは、ワーカーの方々の負担になってしまいますので、今回は報告のみにさせていただきます。今後、開催するかに関して皆様のご意見をいただきたいと思っております。

◎加藤部会長

皆様の要望があれば開催されるということですね。居宅介護支援事業所の脇田委員いかがですか。

○脇田委員

皆さん忙しい中、集まっていたくのは負担なのかなとも思うのですが、私個人の意見は一度そのような場があってもいいのではないかと思います。

◎加藤部会長

内容的にどういったことをやってほしいとかありますか。

○脇田委員

ケアマネジャーとしては、大きな病院など入院されたときに使う連携シートというものを送るのですが、入院されてからシートを出すのが遅い

と言われてしまいます。

他にも、シートにはその患者の人生観、自宅に帰ったときの環境が書いてあると良いとされているので、そのような内容を盛り込んだシートを一度検討してみるのもよいのではと思います。

◎加藤部会長

新しい連携シートのフォーマットをつくるということでよろしいでしょうか。

●事務局

連携シートにつきましては、2市1町の保健師が集まってワーカーの方の意見を聞きながら共通の内容で作っていきけるといいと思います。

◎加藤部会長

他にご意見があればお願いします。

訪問看護事業所としてご意見を太田委員お願いします。

○太田委員

コ会議の中に、ケアマネジャーが入っていないのはどうしてでしょうか。

●事務局

もともと、北名古屋市地域ケア会議の中で、3病院をお呼びして意見をいただく予定でしたが、議事の関係で一言ずつしか意見をいただけなかったため、コ会議を開催したという経緯がありました。

おそらく、大元の北名古屋市地域ケア会議のほうには参加されていたのではないかと思います。

○太田委員

コ会議なども連携というのであれば、連携をとるところ全てに声かけしたらいいと思います。

また、清須市、北名古屋市、豊山町と枠組を作ると気が引けてしまいます。レインボーネットと同様に、会議なども一緒に進められるといいのではないかと思います。

◎加藤部会長

合同のコ会議などがあればいいということですね。

幅広く取り扱っておられる社会福祉協議会のほうからご意見あればお願いします。

○高橋委員

訪問介護をしている身としては、医療との連携などに関わるものが少ないです。連携シートなども負担にならないように出来たらいいのかなと思います。

また、脇田委員が先程おっしゃられていた、患者の人生観や価値観、自宅に帰られたときの環境などは、実際に自宅に訪問している私たちが具体的に知っていることなのでお伝えしていけたらなと思います。

◎加藤部会長

脇田委員と高橋委員から連携シートについてのお話がありましたように、医療の立場からは古くなっていない新しい情報がほしい。ただ、負担は増えないようにとといった、速さと軽さというのがテーマかなと思います。

ぜひ、脇田委員にはそういったフォーマットのほうを作っていて、電子連絡帳のほうに載せていただきたく思います。

歯科医師の立場ではこういった連携シートに関してどういったご意見があるかお聞かせください。

○大前委員

今日もペガサス春日のほうで診察をしてきたのですが、初めての患者の情報でもらえるのは、服薬の有無のみです。

今日もそういった状況で、歯を抜いてくださいという話でした。しかし、本当にすぐ抜いていいのか、家族と確認は取れているのか、抜いた後どうするのかといった内容を家族と相談したい場合、家族と医師のやり取りを、施設の事務の方を中継しており、3度手間になっています。そこも何とかしたいです。

◎加藤部会長

薬剤師の立場で何かご意見ありますか。

○山口委員

連携シートについて伺います。

患者が入院されたとき、病院から皆さんのほうに情報がほしいと要請があって、シートを書くといった流れでよろしいでしょうか。

○脇田委員

病院からこういう情報がほしいと催促されるということは無いです。

ケアマネジャーとしては加算がつくので早く送ったほうがいいという事情があります。

○山口委員

以前、施設でインフルエンザが流行した際に、予防する為にもみんなに薬を飲ませるというときでも、利用者全員の家族に連絡を取り、了承を得られない方は服薬できないことがあった。そういうときでも全て判断を仰がずに、というわけにはいかななくても、医師の指示のときなどは出来るようになればいいなと思いました。

◎加藤部会長

すでに処方されて服薬されている薬だけでなく、予測されるものに対しては事前に同意を得ておくことも必要だということですね。

では、在宅医療サポートセンターで活躍されている中西さんいかがでしょうか。

○中西オブザーバー

資料4のコ会議について少し補足と今後のサポートセンターの活動についてお話しさせていただきます。

まず、この名鉄病院、西部医療センター、小牧市民病院の3病院を呼んで会議を開いたところの背景として、平成30年度に清須保健所とサポートセンターが協力して行った2市1町のレセプト分析の結果から、北名古屋市は管外の病院においてはこの3病院がもっとも入退院が多かったという現状がありました。つきまして、全体の協議会を開催して、さらに連携の理解を深めるためコ会議を開催したと伺っています。

今後の活動についてですが、脇田委員、太田委員のお話にもありました、病院のワーカーの方々の負担というところで、会議に出席するのも難しいのではないかとありました。

サポートセンターとしても広域的に様々な調査やサポートをしていける立場にあるため、2市1町の管内管外を問わず、どこの病院に入院しているのが多いのか等、もう一度レセプト分析から洗い出して、医療機関に対して連携をとって調査していこうと考えています。

今後の業務検討会、連携シートなどの負担無くタイムリーな方法というところを調査から見つけられるかもしれないので、そういったところもサポートセンターでやっていきたいと考えております。

◎加藤部会長

そうすると例えば、清須市では第一日赤病院が対象であったり、あま市民病院であったり、管外の地域性が異なってくるかもしれないということも考えておかなければならないということですね。

レインボーネットについてなどいかがでしょうか。

全体を見回しておられる、保健所はどうでしょうか。

○杉山委員

ICTの利用に関して、利用が伸び悩んでいるというお話がありました。

患者の数は現在12名というところで、数だけ見るともう少し利用できる患者がいると思います。こういった新しい技術は、これまで積み上げてきた現場の方々からしたら、導入には最初かなり大きな壁があると感じます。

患者数が指標としてあるのですが、それよりも重要なのが動向数といったところであり、一人の患者に対して、どのくらいやり取りがあつて、情報をみんなで共有できているか、というところがこのICTを導入して評価していくひとつの指標になります。

使っている人たちにどれくらいメリットがあるのかというところを強化していけば、これから新規の患者登録も増えると思います。

また、来年大きくリニューアルがあり、インターフェースを変えて使用者が使いやすいものにするということをIIJの連絡会議で発表があつたと聞きました。

ITの技術は発展性がとてもあり、特に愛知県内の47の市町村が使っています。今後も使えば使うほどより良いものになっていくと思います。今は患者数が少ないところですが、技術の進歩を見守りながら、より有効的に活用していくといいと思います。

また、災害時の要援護者のマッピングなど今後災害のことも入ってくるというように聞きました。

私の個人的な話ですが、3年前の熊本地震で本震から3日後に現地に入り活動しました。

災害発生直後、杖をついている方や、寝たきりの方などが避難所にこられず、家の状況が苦しくても在宅で生活される方が多くいます。その方たちの情報が被災直後にはなかなか現場におりてきません。私が活動していた1週間程ですが、最後まで情報がおりてくることはなく、次に入ってきた第2班で情報を取って動いていました。

このICTの連絡管理が浸透して、災害直後であっても比較的容易に地域の方の情報を共有できることは良いことだと思います。

しかし、先程事務局の話からもありましたが、個人情報で、また一人暮らし高齢者は、オンライン上に自分の情報が載ることに抵抗がある方が多い世代だと思うので、やり方を考えていかなければならないと思います。初動が遅ければ、そういった方たちの命を助けられなくなってしまうため、現場に出る側としては活用を願うところがありますので、地域に浸透してほしいと考えております。

◎加藤部会長

最近では千葉で大規模停電があり、大変なことになっております。

行政の情報がないと動けないので、いかにすばやく情報を届けるかと

いうところですね。北海道地震のときは、小児科の先生一人が中心とな
って情報が伝達していった、ということ聞いています。

今後清須市もこういった会議を通してやり方を話し合っていきたいと
思います。

他になれば、これで質疑は終わらせていただきます。

それでは、次第7 その他 を事務局からお願いします。

7 その他

●事務局

貴重なご意見ありがとうございました。では、次回の会議は来年の2
月か3月頃を予定しておりますので、委員の皆さまにはご理解ご協力を
よろしくお願いいたします。

◎加藤部会長

今回の議事につきましては、全て終了いたします。

これをもちまして、令和元年度清須市地域包括ケアシステム推進員会
「第1回在宅医療・介護連携推進部会」を閉会します。

本日は円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。

8 閉会

午後3時

会議の結果	会議の経過に示したとおり
-------	--------------

会議の経過を記載して、その相違のないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日
署名委員

令和 年 月 日
署名委員